

## 第1回 鹿島市まち・ひと・しごと創生会議 会議録

平成 27 年 5 月 18 日(月)15:30～17:10

鹿島市役所 5 階 大会議室

### ○市長あいさつ

まち・ひと・しごとについては、ご存じのとおり、いろいろな場所で話題になっている。みなさんの英知を絞っていただくことが大事であり、いつもの会合とは違い、一緒になって作り上げていくものとなる。

各地域が競争して、アイデア比べをしていかなければならない。

人口が減っていくことは明らかである。国県のサポートを受けながら、歯止めをかける方策が必要となる。

総合計画も含めて、みなさんのお力添えを受けながら創り上げたい。

### ○事務局説明

(省略)

### ○意見交換、質疑応答

【小川委員】(公募)

人口の関係で、企業誘致と市町村合併をどう考えられているのか。

《事務局》

企業誘致は雇用を増やすということで効果的な施策と考える。今日の説明で具体的に表現をしていないが、今後、計画に入ってくるものとする。市町村合併は視野に入れていない。

【前田委員】(公募)

市役所の中に提案制度があるか。その実績はあるか。市職員の能力開発につながるのではと思うがどうか。豊田市、北九州市で積極的に実施されていると聞いている。

《事務局》

職員提案制度は平成 22 年から市民政策提案制度とともに立ちあげられ、100 件程度の提案があり、現在も随時受け付けている。今年度は地方創生総合戦略の策定をしなければならぬということで課長を通じて積極的にアイデアをもらっているところである。

《市長》

地方創生は地域力が鍵となる。地域をあげて作り上げなければならない。4 月に県の段階チャレンジ交付金の提案を募集したが、提案のほとんどは職員からであった。市民からの提案というのは少なかったように思われる。また、職員提案は事務改善の意味合いは強いことを

理解していただきたい。

【小川委員】(公募)

鹿島市の人口を増やすということであれば、移住者を受け入れる体制が整えられているのか。地域によっては土地や牛をあげるから住んでほしいという取り組みをされているところもある。市長の意見を聞きたい。

《市長》

物をあげるからここに住んでというのは、とるべき施策としてはあまり好ましくないものと考え。それより、今住んでいる人ががんばれる体制を整えることが先であり、住んで幸せを感じられるようにすることが大事と考える。こうしたら人口が増えるのではないかという提案をしてほしい。

【山口委員】(公募)

市民政策提案の実績はどうであったか。  
五次総での人口減少対策はどうだったのか。

《事務局》

市民政策提案制度でいただいた提案についてはその中でもすぐ実施ができるもの、財源等の問題ですぐに実施ができないものと振り分けをして、すぐに実施できるものについては実施してきたところである。例えば、かし丸くんの活用や鹿島のサポーターを増やす取り組みなどである。

五次総では平成27年度末の人口31,000人と目標を掲げていた。人口減少対策として取った施策としては住環境の整備のために、雇用促進住宅の購入・整備、住宅リフォーム補助金を交付などの事業に取り組んできた。今年度が五次総の最終年度となるので精査を行い、検証していくということになる。

《市長》

五次総の時にみなさんでがんばろうと計画を策定した。達成できなかった要因の一つとしてアクセス面の弱点があったと考えられる。外から呼び込むというよりも地域で頑張れるようにすることが重要だと考えている。

【山口委員】(公募)

五次総の審議会委員をしていたが、この程度の計画では達成できないだろうと思っていた。もっと具体的な計画が必要であったと思う。道路のことを考えると外から呼び込むことは難しい面があると思うので、地場企業の強化や第一次産業を強化するような計画、風土を作るよう

にしてはどうか。

《市長》

この会合が鹿島独自のもの、風土を醸成するような会になればよいと考える。

【小川】(公募)

他の地域のやっていることを真似してもいいと思う。また人材育成も重要だと考える。イベントに人を呼び込むためにイベントとイベントをくっつけて付加価値をつけることもいいと考える。

【西委員】(商工会議所)

商売をしていると新商品を開発することは大変な労力が必要になる。他業種が集まる場を行政で設けてもらえば、ものづくりが活性化するのではないかと考える。

【太田尾委員】(フォーラム鹿島)

鹿島市の資源、魅力を活用するという話があったが、今の鹿島市の状況、特徴をまとめれば、PRしていける部分があると思う。子育て世代としては、子育て、育児をしたいと思える特徴を伸ばしてほしい。子育て世代はお金がないと言われているので、住む場所にしても他の地域と比べてシビアに選んでいると思う。子育て、育児をしたいと思えるメリットがあれば住むのではないかと。また仕事がないと住まない。高校生であっても、大学生であっても卒業したら鹿島から出て大阪、東京に行ってしまう。鹿島に就職してもらえるようにPRすることも必要だと思う。

《市長》

子育て世代の奥様方の住みたいところというアンケートの中で一番は買い物とかあまり移動しないのできるなどの便利なまち、次に子どもを安心して預けられるような秩序が安定しているまちとなっている。子育て世代の方にお尋ねしたいのが、電気代などが高いとお金がないとなって住まないと思うが、それが住まない理由の決定的な理由になっているのか。行政側としてもそこが知りたい。また異業種の交流の話が出たのだが、フォーラム鹿島が今までもそこを担っていると思っているのだが現在のところはどうか。

【太田尾委員】(フォーラム鹿島)

子育て世代が選ぶ住むところということで、私は鹿島市に魅力がないとは思ってなくて、鹿島は子育ての相談窓口が相談しやすくしっかりしていると思うので、そのような特徴をPRすれば、子育て世代が住むところを選ぶメリットの一つとなる可能性があるということである。フォーラム鹿島の活動については、西さんたちのような若手の意見を取り入れながら、方向性を決定していければいいと思う。

【古川委員】(佐賀銀行)

鹿島の印象として以前より活気がなく人通りが少なくなっていると感じている。福岡に日本一の直売所があって、なんで流行るのかなと考えていたが、おいしいもの、売れるものを作ろうという農家の方の努力によるブランド力だと感じている。鹿島にも同じものがあるが、ブランド力がない。鹿島ならではのブランドづくりが必要なのかなと思う。

【高松委員】(老人クラブ)

北鹿島にとうもろこしを作っているところは全国発送で行っているところは流行っている。ブランド化はいいことだと思う。老人会で話をしている、第一次産業では高齢化して人手不足で困っているという話を聞く。

《市長》

いいものを作っておられるところは努力をされている。そこはみなさん分かっておられると思う。でも個人で止まっている。これが集団になったらブランドになるのではと思うが、鹿島は作物がなんでもできるので、そこがネックなのかなと思う。一つの作物しかできない土地であったら、みんながそれを作るので一気にブランド化できると思うができない。これからの課題だと考えている。市内でいろいろな人から人手不足と聞くが、逆に仕事がないとも聞く。仕事のミスマッチがあるのではないかと考えている。仕事のマッチングの必要性を感じている。

【實松委員】(佐賀県)

県でも鹿島市と全く同じ作業をしている。人口推計は統計なのでそれ自体には意味はなく、なにをしなければ人口が減少し続けるのかというのを把握することが大事で、その作業を行っているところである。総合戦略は先ほどから話が合っているように知恵の出しようだと思う。ここにはいろいろな業種の方が集まられているので、アイデアをみなさんに出してほしいというのが事務局からのお願いなのかなと思う。

住んでもらうには仕事がなければ生活できないので県も働く場を増やす努力をしている。それには地場企業の育成をしっかりと行っていくことが必要と考えている。合せて若い人たちが働こうとしたときに支援がしっかりしていることが大事だと考えている。そうすれば地域に根付いた仕事をもらえると考えている。

子育てについては便利なところに越したことはないと思う。最近は食材の宅配のようなものもあり、やりようによっては便利な環境ができるのかなと考えている。

県では若い人がどのように動いているのかというのを調査していて、高校卒業して県内に残るのが900人くらい、3,000人くらいが県外に出ている。その3,000人のうちの半分が福岡に出ている、その人たちが戻ってきて仕事をする又は福岡に仕事をしに通うようにできれば人口の減少に歯止めがかかるのではと考えていて、それを市町と連携してできないかと議論を行っているところであ

る。この会合もそうだが、アイデアをいろいろなところから出してもらうことが計画策定に必要なだと考えている。

《事務局》

5 月市報に総合戦略の提案募集を掲載している。鹿島市役所の企画財政課で受付しているので、ここにお集まりいただいた方だけでなく、職場や知り合いの方に声をかけていただき、より多くの人のアイデアをいただきたい。

○今後のスケジュール

次回は 8 月上旬を予定